活動報告

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進総決起大会

4月26日

縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す総決起大会が東京で開催され出席しました。県議会にも縄文議員連盟を立ち上げましたが、今後登録に向けて機運を盛り上げていきたいと思います。

葛黒火まつりかまくらに参加

2月19日

子ども達の「かまくらのごんごろう」の合図と共にご神木は見事な火柱となり夜空を焦がしました。

豪風旭関を応援する会が設立

4月14日

本場所への応援ツアー実施の他、パブリックビューイングなど地元の応援の輪を広げていきたいと思っています。

産業観光委員会県内調査（雄勝管内）観光関係者との意見交換会

一般質問には沢山の地元の方々に傍聴にきていただきました。

地熱発電所視察

北林 たけまさ

〒018-3322 北秋田市住吉町4-14
TEL 0186-69-9500　FAX 0186-63-2733

たけまさ'sブログ鋭意更新中　地域の話題盛り沢山！

http://blog.kitabayashi-takemasa.com/

[討議資料]

北林たけまさ

県議会活動報告

平成29年 5月号

総務企画委員長就任

こんにちは北林たけまさです。山の緑も日増しに色濃くなり、春本番を迎えています。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて県議会は4年任期の折り返しを迎え、新議長、副議長が選出された他、各委員会の変更も行われ、私は総務企画委員会の委員長を仰せつかりました。県は今年度から人口減少の抑制に向けた取り組みを強化するため、移住及び定住、少子化対策、女性及び若者の活躍などを一体的に推進する組織として「あきた未来創造部」を設置しましたが、この新部も総務企画委員会の所管となり、責任の重さを痛感しております。県当局とは前向きな議論を重ね、県民の皆様の心に届くような政策を推し進めるよう努力してまいりたいと思います。

また、地域の課題についても幅広く、積極的に取り組んでまいる所存です。皆様の変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

http://blog.kitabayashi-takemasa.com/

2月定例議会
北林丈正 一般質問

自民党会派代表質問を行う (2/13)

1. 国際政治の変化について
2. 3期目に向けた意気込みについて
3. 本県人口の将来展望について
4. あきた未来総合戦略について
5. 農林業振興について
6. 人手不足への対応について
7. 子どもの貧困対策について
8. 小中学校の統廃合について

総括審査で「あきた未来創造部」設置について佐竹知事に問う

北東アジア議長フォーラムを秋田市で開催（4月18日）。ワーキンググループのメンバーで成功を喜び合う。

手話言語条例の制定を関係者と共に喜び合う

森吉山の国定公園昇格について

森吉山県立自然公園を国定公園に昇格させようとする動きが具体化してきた。北秋田市観光物産協会は、「昇格運動連絡協議会」の設立に向けて今年3月に発起人会を発足させ、また同月12日にはプラザコムコムで北秋田市主催の公開セミナーが開催され、国立、国定、県立の自然公園制度や指定への動向などについて認識を深めた。

私は、かねてから森吉山の国立若しくは国定公園昇格について関心を持ち、一昨年の県議会6月定例会一般質問でその可能性について質問するなど、実現に向けて可能性を探ってきた。実現には、まずは地元の理解と熱意が必要であり、こうした動きが出てきたことについて大変喜ばしく思っている。そこでまず、森吉山を巡るこれまでの経緯と国定・国立化への見通しなどについて少し述べてみたい。

森吉山は昭和43年に県立自然公園に指定されたが、その面積は1万5,214haと県内8ヶ所の県立自然公園の中で最も広く、鳥海国定公園の1万5,940haとも肩を並べる。また、一帯の自然の生態系や地形地質の景観、原生度などは、国定公園としても何らそん色なしと評価されてきた。平成5年には地元山岳会などが森吉山の国定公園昇格要望書を森吉町、阿仁町に提出し、また同年3月30日には魁新報社が社説「森吉山の国定公園化に期待する」を掲載、さらに同年5月には県山岳連盟も県知事と県議会議長あてに要望書を提出するなど、昇格への機運は大いに盛り上がった。県も自然環境の保全優先を求める世論と観光振興による地域活性化を両立させる構想として「国定公園化」という方向性を示し、実現の一歩手前までこぎつけたが、地元にはスキー場の山頂部開発を目指す動きもあり、合意は得られず、一旦棚上げされることになった。今から思うと誠に悔やまれるところである。

あれから20数年が経ち、森吉山を取り巻く状況は大きく変わった。スキー人口の減少時代を迎え、森吉スキー場は平成18年に閉鎖、その後完全撤去され元の自然に戻す取り組みが進められている。阿仁スキー場は経営が行き詰まったが、平成23年に北秋田市が引き受けることになり、現在はスキー場としてだけでなく、四季を通じた観光振興に県・市が協働で取り組んでいるのはご承知のとおりである。

樹氷や紅葉、高山植物など森吉山本来の自然を楽しむ観光客や登山者は年々増えており、最近は外国人観光客の増加も顕著である。

一方、国定ではなく、国立を目指すべきと考える意見もあり、市開催のセミナーでも講師が可能性に言及したようだが、これについても私見を述べたい。私も以前、森吉山は十和田八幡平国立公園と接しており、単独での指定は無理（面積要件が不足）だが、編入は出来ないものか。また十和田と八幡平は指定の時期も異なり、地理的に一体ではないので、分離できないものだろうかと考え、環境省にも出向いてお話を伺った。しかし、結果は極めて難しいとの事であった。森吉山の自然要件が編入にふさわしい条件を満たしているのか、また仮に満たしていても、編入や分離は関係自治体の同意を必要とするため、その調整の難しさは想像に難くない。将来の可能性として国立公園化を目指すことに異論はないが、「国定」と「国立」を同列に並べ天秤にかけるようなものではないと考える。

森吉山の魅力はゴンドラで登る正面側だけでなく奥森吉、奥阿仁など多種多様だ。面積も広く道路や登山道の整備など課題も多い。国定公園昇格に当たっては、県が公園計画の原案を作り環境省に指定を申し出る事になるが、その際、森吉山一帯の広大な自然をどのように保護し利用の増進を図るかについて、十分な検討が行われ、より適切な公園計画になる事が期待される。

かつて、地元の足並みが揃わない原因となった、山頂部のスキー場開発を目指す動きはもちろん今はない。合併して森吉山の所在地は北秋田市一市のみである。県市あげて森吉山の観光振興に取り組んでいる今が、平成5年にあと一歩のところまでいった国定公園昇格を実現する絶好の機会ではないだろうか。

まずは地域住民の理解と関心が高まり、「国定公園化」への機運が盛り上がることを切に願っている。